



愛知陸協広報

第12号

21年1月1日発行

愛知陸上競技協会

〒460-0012 名古屋市中区千代田二丁目19番16号千代田ビル7F

電話 (052) 249-4363 ファックス (052) 249-4366

e-mail ark@marble.ocn.ne.jp

ホームページ: url <http://goldjaic.org/jaic/member/aichi/>

女性アスリート 1475名が名古屋に集う



女子普及種目クリニック・記録会
(3000m 障害物・競歩・棒高跳・ハンマー投)
2008年11月2日

第26回レディース陸上競技
選手権大会
2008年11月3日

於 名古屋市瑞穂公園陸上競技場



新年の抱負

副会長兼理事長 國分 一郎

あけましておめでとうございます。年が明け、もうすぐ都道府県対抗男子・女子駅伝があります。毎年のように、男子は優勝候補が上がっています。昨年1月の大会は、後半よく追いつけましたが、優勝できませんでした。代表に選ばれた競技者諸君は、期待通りの走りができるよう調整をして大会に臨んでほしいと思います。また、指導者の方もご協力をお願いします。女子の場合は、最終区間が10kmのため実業団の有力競技者のいる県が有利です。高校生が力をつけてきていますので、大南選手の協力を得て上位に入りたいものです。大分で開催された第63回国民体育大会では、愛知は天皇杯得点55.5で第18位、皇后杯得点は21.5で第28位でした。得点から見てわかりますように、点が取れていません。特に女子の強化が必要なることを示しています。選手強化委員会は、男子少年Aの10000m、女子少年Aのハンマー投、女子少年共通の棒高跳など普及度の低い種目の練習会を計画するなど、発想を豊かにしてほしいものです。また担当コーチは、得点の取れる競技者への働きかけを、自分の責任として年中やってほしいと思います。強化費が愛知陸協よりはるかに少ない県で上位に入っている県があると思います。そのような県の活動を参考にして、改革案を立ててほしいものです。中学生に有望な競技者が育って来ていますので、期待しています。ぜひ8位以内に入ってください。

2009年の東海地区の大会で、愛知県で開催されるのは、10月末の東海高校新人陸上競技大会のみです。ミスなく運営したいので、審判員の積極的な協力を期待します。

2009年の秋には、全国マスターズ陸上競技大会愛知開催が計画されています。名古屋グランパスとの関係で、瑞穂競技場の調整会議日程が遅れています。従って期日が確定していませんが、3日連続となります。9月19～21日の連休を当てることになるとは思いますが、多くの審判員の協力をお願いします。種目や用器具に特殊なものがあります。日頃審判編成で主任・副主任になっている方は、研修を深めておいてください。愛知マスターズ連盟の方々は、審判員への働きかけ、補助員を依頼する東海学連への働きかけを積極的にやってください。第26回レディース陸上競技大会の頃から社会の経済情勢が、悪くなっていますので、広告協賛への依頼についても困難が伴うと思います。愛知マスターズ連盟の方々の努力に期待します。

2009年のジュニアユース選手権大会は山梨県での開催が決まっていますが、2010年以降の開催地はまだ決まっています。全国の多くの指導者が、交通の便のよい日本の中央部で開催してほしいと話しております。審判技術の維持・向上のため、また競技者のためにも、続けて瑞穂開催を誘致したいと考えております。日本陸連の決定の際には全面的な協力をお願いします。

支部報告

名古屋支部

今年度のトラックシーズンは、10/18・19の第36回支部選手権をもってほぼ終了。審判員や選手諸君には色々な面でのご協力に感謝します。今年是一部パソコン入力ができなくて、大会申し込みに迷惑をかけました。来年度はスムーズに申込みができるように努力していきます。今後も、駅伝・マラソン・ロードレースと大会が続きますので、選手諸君の一層の奮闘を期待しています。合わせて審判員のご協力もお願いします。

1 支部選手権優勝者は下記の通りです。

	男子		女子	
100m	伊藤 健志	10.70	鈴木 舞	12.47
200m	屋貝 博文	21.68	鈴木 舞	25.56
400m	小熊 翔一	49.24	柘植 早織	57.92
800m	鈴木 俊介	1.54.85	市川ゆきえ	2.18.35
1500m	鈴木 俊介	4.00.41	南部 七海	4.46.98
5000m	上田 泰輔	15.25.39	田口 翔子	18.09.29
10000m	宮本 斉浩	30.44.60		
110mH	久田 尚弥	14.21		
100mH			山崎由加里	14.03
400mH	内藤 卓雄	54.19	市村 真帆	1.03.78
3000mSC	石塚 誠	9.14.14 (GR)		
4x100mR	愛知学院大	40.99 (GR)	名城大附属高	49.67
4x400mR	愛知大	3.17.82 (GR)	瑞陵高	4.05.22
走高跳	早川 周吾	2.03	松本 明美	1.70
棒高跳	後藤 弘樹	4.40	前田 朋子	3.90 (GR)
走幅跳	山崎 翔太	6.82	山口 えり	5.37
三段跳	山本 雄介	15.34 (GR)	小川 詩織	11.65
砲丸投	小山祐一郎	12.59	久間みのり	12.46
円盤投	墨 浩輔	36.60	高橋 裕美	35.70
やり投	高橋 孝郎	59.76	田中 真央	40.89

2 今年度活躍した中学生

岡田 壮平(東港) 400m、800m 清水 大樹(味美) 砲丸投
 笹田 康弘(東海) 100m 粕谷 隆明(守山西) 走高跳
 橋本 佑輝(千種) 棒高跳 北野 有紀(愛知淑徳) 200m
 森 佑紀那(長良) 100m 山田 恵里(長良) 100m
 服部 優亜(なごや陸上クラブ) 800m、1500m

3 今後の予定

- ①愛知陸協支部陸上教室
 - ・瑞穂会場(12/13終了、1/10、1/24 予2/14)
 - ※投てきは知多で(12/20終了、1/11、1/25)
 - ・知多会場(12/13終了、1/10、2/14)
- ②名古屋支部普及競技会(知多、愛日)
 - ・小学生大会(2/7、2/28)
 - ・中学生大会(1/31、2/28)
- ③審判伝達講習会(3/20、21) (坂井田藤三)

尾張支部



平成20年度のトラックシーズンを終えた今、尾張支部の最大の関心事は、愛知県一宮総合運動場陸上競技場の完成です。11月15日現在の工事の様子を写真掲載させていただきました。

平成21年4月開場で、今急ピッチで工事が進められています。前回の報告時にはトラック、フィールドの掘り起こし、整地等、基盤部分の工事の状況を掲載しましたが、今回は管理棟・スタンド部分と新トラックの建設推進の状況をお知らせいたします。

この工事と併行し、尾張支部の特に中・高校へ旧競技場の廃棄物品、施設装備品などの引き取りをお願いしたところ、抽選をするような状況でした。再利用ということでご理解をいただき、誠にありがとうございました。今、早めの引き取りをお願いしているところです。

今年度は、7月中旬よりこの一宮総合運動場が使用不可になり、知多競技場の関係の皆様には大変お世話になりました。現在、平成21年度の事業計画を詰めているところですが、新競技場が完成の運びになっても、全ての競技が実施可能なわけではありません。とりわけフィールドの芝養生の期間が最大半年は必要であります。したがって、上半期の事業の競技会部分（県選手権尾張予選会、高校総体尾張支部予選、中学通信陸上、高校新人尾張支部予選会等）は、また知多競技場でお世話にならないと競技会が成立しないのではと懸念しています。そういった意味では、名実ともに全面的に使用可能になるのは10月以降と考えています。関係の方々のご理解とご協力をお願いします。工事竣工後の関連の行事等の計画も上がっていますが、まだ具体的なお披露目行事等は少し先の話になりそうです。次回広報でご紹介できることを願っています。（原川 豪）

西三河支部

このごろ

焼けるような猛暑が続く8月初めの夜、城西高校村上校長先生から喜びの電話をいただいた。全国高校総体で、男



子八種競技の中村明彦選手と女子走高跳の河澄真子選手が優勝、女子100mの市川華菜選手も7位に入賞という大変見事な結果であったこと、そのうえ中村選手は男子の最優秀選手にも選ばれたということで村上先生の声も弾んでいた。

さらに嬉しいのは、3人とも地元（西三河）中学の卒業生であることを、力を込めて誇らしげに話されたのが耳に残っている。

地元中学からの卒業生を預かり、ここまで育て上げられた監督・コーチの皆さんの労苦をねぎらい、支部としての祝意を表わしたい思いで、10月13日に祝賀の会（写真）を催した。当日は60名を越す皆さんの参加を得て、にぎやかな宴とすることができた。

この会は、当支部の柴田和秀理事長が、永年にわたる愛知陸協への貢献と陸上競技の指導者として後継者の育成に尽力された功績により、「秩父宮章」を第63回大分国体の陸上競技会場で受賞されたことを祝うおめでたが重なった会であった。

地元の生徒が地元で育つことの意義は大きい。送り出す中学校、受けて育てる高校の連携と、信頼関係があつてのことだと思ふ。

近ごろ言われる「地産地消」を言い替えて、「地生地育」（地元生まれの地元育ち）と言うのはどうだろうか。

ホープさん⑥

森 佑紀那（長良中2年）

全国小学生大会で5、6年生100m連覇。小学校時の自己ベスト12.88である。初めて森と話をしたのは、入学前の春休みだった。最初の印象は緊張していたのか物静かな感じであった。しかし練習を見ると、その印象を吹き飛ばすかのような動きを見せてくれた。ものすごくダイナミックでのびのびと、そして楽しそうに走る姿を見せてくれ、これが中学1年生の走りなのかと驚かされた。

森は、練習仲間にも恵まれた。1学年上には山田恵里があり、ベスト記録もほぼ同じ（昨年度は森が12.39、山田が12.42。今年度は森が12.26、山田が12.27）で走っており、練習時からとても良いライバルとなっていた。

森は、どちらかというとも明るく誰にでも話しかけることができるタイプ。山田は、集中して物静かに練習に取り組むタイプ。この相反するライバルが常に一緒に練習することで、お互いを高めることができた。一人だけ強くてはどうしても練習で追い込めない。そんな中、先輩の存在が大きかった。

森を指導していて一番驚いたのが、勝負強さである。狙った試合で気持ちを高め、勝負する準備をするのがとても上手である。それを証明するのが、全中、ジュニアオリンピックなどの大きな大会で確実に自己ベストを出していることであろう。本人と話をすると、「大きな大会の雰囲気が好き。早く走りたい」との言葉。中学1、2年生において大きな大会を「楽しんで勝負できる場所」といえるのには感心した。多くの中学生は全国大会になると緊張して力が発揮できない。しかし、森はそれを楽しむといっていた。

そんな森であるがゆえに、今まで勝負で負けたことがなかった。初めて同学年で負けたのが昨年度のジュニアオリンピック。12.39という自己ベストであったが同着、1000分の5秒差での負けだった。それまで一度も負けたことがなかった森にとって、1000分の5秒差とはいえ、初めての負けは、とても悔しそうであった。また、今年の全中は準決勝で腰を痛めてしまい、決勝は満足に走れなかった。そのときも相当悔しい思いをした。

昨年度、初めての負けを経験し、今年度は、故障を経験した。森はそんな逆境を乗り越え、どんどん成長している。来年度、さらに進化した森がトラックを疾走する姿を想像すると、今からワクワクしてくる。

さらに今後、順調に成長して、いつかは世界を舞台に活躍できる選手になってほしいと願っている。

（佐橋 弘晃）



恵里さんと明るくポーズ（本人左）



練習風景

多くのことを学んだ1年

今年の春先には調子がよく、練習にも気合いが入っていました。県総体で自己ベストの12秒26を出せて順調に全国大会へと進みましたが、100mの準決勝で以前痛めた腰を再び痛めてしまいました。決勝では、自分の走りができず悔しい思いをしました。

その後、リハビリを行ない、ジュニアオリンピックに向けてがんばりました。直前まで出場を迷いながらも出場し、6位入賞しましたが、自分本来の走りができず不満でした。体調が悪い中で試合に出場する難しさ、モチベーションを維持する大切さを知ることができたシーズンだったと思います。

また、いろいろな時に私を支えてくれた周りの人に感謝したいです。ありがとうございました。

来年は、今年経験したことを生かして、全日中、ジュニアオリンピックで表彰台の一番高いところに立ちたいです。（森 佑紀那）

11月15日に行なわれた県中学校駅伝大会では、西三河勢は男女ともすばらしい活躍をした。とりわけ男子は六ツ美北がダントツの優勝、2位から8位までに4校が名を連ねて他地区を圧倒。女子も2位の平坂を始め3校が入賞するという明るい知らせも届いている。熱心に指導される顧問の先生方の熱意と努力に頭の下がる思いである。支部を上げて声援を送りたい。(山内 満)

東三河支部

「駅伝王国東三河」2校3チームが全国大会へ出場

東三河陸上界は、11月上旬の東三河記録会を最後にトラックシーズンを終えて、いよいよ駅伝シーズンに突入した。

近年の東三河中・長距離界は、トラック種目での活躍もさることながら駅伝での活躍はめざましく、その名を全国に知らしめている。

本年で全国大会11年連続出場を決めた豊川工業高を始め、数年前まで全国大会6年連続出場を果たした石巻中学校等すばらしい活躍をしてきている。更にこの3年北野・森両監督指導の元に急速に力を付けてきた豊川高男女駅伝部の台頭には目を見張るものがある。また、他の高校も先の全国高校駅伝愛知県予選会男子の部において、20位以内に8校も入る活躍をしている。

中学校も11月中旬の県大会において、石巻中が男女とも上位に入賞しており、全国大会は今一步であったが、引き続きがんばっているのも頼もしい限りである。

このように、前述した豊川工業高・豊川高・石巻中の活躍を合わせてみると、当支部は「駅伝王国東三河」と呼ぶにふさわしい各学校の活躍ぶりである。

中でも注目すべきは、豊川高女子駅伝部の大活躍である。昨年度、初出場した全国高校駅伝でいきなり7位入賞を果たし、愛知県はもとより東海地区を一気に飛び越え、全国にその名を知らしめている。

本年度に入ってもその勢いは止まることを知らず、11月上旬に行なわれた全国高校駅伝愛知県予選会においても、ぶっちぎりの大会新記録で優勝し、そのタイムも1時間7分前半と全国ランキングNo.1の記録で全国大会出場を決めている。その後、11月下旬に行なわれた東海高校駅伝でも主力を温存する中で優勝しており正に破竹の勢いである。

一方、ここ数年の間に駅伝の伝統を築いてきた豊川工業高も、渡辺監督の熱血指導によりレベルの高いこの東海地区において、女子の全国高校駅伝記念大会にきっちりと照準を合わせて練習を積み重ね、東海地区での一枠の権利を見事に勝ち取り、全国大会の男女アベック出場を果たしたのは特筆ものである。両校とも12月21日(日)に京都で行なわれる全国高校駅伝大会での大活躍が期待されている。

こうしてみると、中・長距離の活躍ばかりが目立つ東三河だが、短距離種目でも豊丘・成章・国府の女子400mR、豊橋東の男子1600mR等、その学校のチーム力や地区の短距離レベルを推し量ることができるリレーにおいて、多くの学校に好記録が出ていることに来シーズンでの活躍が期待できる。また、11月中旬のジュニアオリンピック少年B100mにおいて10秒99で優勝した鈴木祐太選手(本郷中2年)の快挙は短距離シーズンを締めくくるにふさわしい好記録であった。

(夏目 輝久)

専門委員会報告

競技・情報処理委員会

11月3日に開催した第26回レディース陸上競技大会は全国43都道府県から1400名を越える参加者があり盛大に開催できました。この大会の競技・情報処理委員会準備業務は、大会要項の作成・印刷と送付、参加者の資格審査、種目別参加人数の確定、タイムテーブルの決定、競技注意事項の作成、プログラムの印刷等です。

全国からの参加申込の受付では、申込書類の不備、参加料不足、申込一覧表との不一致等で、事務局からの問い合わせが数十件になりました。申込みの出足が悪く、参加人数不足を心配しましたが、締切日直前に申込みが集中し、競技者データ入力作業が短期間になり大変でした。その後の日程が迫っており、参加申込者の資格審査、プログラム編成、入力データの点検を数回実施しました。間違いのないプログラムを目標にプログラム原稿の最終点検まで念入りに実施しました。毎日、仕事を終えてからの業務であり、10時を過ぎることも10日以上になりました。

大会当日は、1日開催の大会の限界を超えていましたが、準備、運営と日ごろの協力以上に活躍いただき大成功であったことに感謝いたします。競技運営については、全国的な大会にもかかわらず、過密なタイムテーブルのもとに、リハーサル大会も満足に持てず、総務員(進行担当)の無理な指示に各主任を中心に対応いただき、スムーズに進行でき感謝しています。日本陸連、全国女性委員長はじめ大会参加者から、大変すばらしい運営であるという評価をいただきました。今後も、選手強化、競技力の向上、競技役員・審判技術の向上のためにも、全国的な大会を積極的に開催する機会を設けていきたいと考えています。

2009年度の日程は、全国大会日程・要項によって決めていきます。特に瑞穂陸上競技場は、グランパスエイトの会場としても使用されます。今年度は年明け1月上旬に利用調整会議が開かれ、会場の確保が決定します。

(外山 幸男)

審判委員会

トラックシーズンも終わり、各競技会の審判業務にご協力いただき感謝しています。すでに、駅伝、マラソンなどのロードレースのシーズンに入りました。審判の方々には引き続きご協力をお願いします。

10月13日(月・祝)に日本ガイシアリーナに於いて第2回B級公認審判員資格取得審判講習会を行ないました。19名の合格者があり、第1回と合わせて47名の新しい力(5ページ表)が誕生しました。すでに、いろいろな場面で活躍しています。また、来年度も2回に分けて実施する予定です。県要覧等でお知らせします。卒業生、お知り合いの方に声をかけ一人でも多くの方が審判資格を取り、活気ある競技会、公正に運営される競技会の一員として活躍されることを望んでいます。

審判出席調査の回答はがきについて、回答していただけた方が増えてきました。しかし、まだ学校の先生方の回答が少ないようです。必ず出すようにお願いします。審判編成の時に困っています。ご理解をいただき、はがきをポストへ!!

クラブ紹介⑥ 田原陸上クラブ

『楽しく 走ろう』



高校生による高学年指導

田原市では、「愛知県小学生リレー競走大会」が開催された当時、市内の小中学校で陸上競技に熱心な先生方が指導しておられました。そして、その範囲を広げて2~3校の児童を集めて指導にあたってきました。

その後、白谷陸上競技場ができたのを機会に、市内の小中学生1年生~6年生を対象にして毎週土曜日・日曜日に陸上クラブを開催しています。クラブ員は230名ほどで、指導者は20名、田原陸上協会員を中心に指導にあたっています。

目的は、あらゆるスポーツの基本である「走・跳・投」の指導を通して体力の向上を図り、将来のスポーツ活動の基礎体力をつくと共に、健全な精神を育成し、多くの児童が仲良く、楽しく、協力しあって練習ができることを目的としています。

毎週土曜日 (1年生~6年生) 午前9時~11時30分

走りの基本動作(腕振り、もも上げ、動き作り)、ボール遊び、縄跳びなどで児童の個性を伸ばし、体力の向上を目指しています。

また、低学年と高学年に分けて指導しています。そして、低学年は、練習中にケガをしたり、気持ちが悪くなったりした児童の世話ができるように保護者数名に当番制で練習に参加してもらい、指導者の補助役として活動していただき、指導者との意志の疎通をはかっています。

毎週日曜日 (4年生~6年生) 午後14時~17時

リレー競技を中心に考えて、短距離の走力や跳躍力アップ、長距離走などの種目指導に取り組んでいます。また、この練習成果の発表の機会として、クラブ内での記録会や競技会への参加をしています。その他、中学生や高校生との合同練習会や指導会に参加して向上心が高まり、練習への意欲が持てるようになればと思っています。(大羽 征幸)



ウォーミングアップする低学年

前号で実技講習会に少しふれましたが、こんなことをやってほしい、こんな事がわかりにくいなど、審判員の方々の声をお聞かせ下さい。

来年度はマスターズの全国大会があります。普段の競技会から全国大会を意識した審判業務を心がけるようお願いいたします。

各支部で2009年審判伝達講習会が東三河3月15日(日)を皮切りに、名古屋3月19日(木)・20日(金・祝)、尾張3月20日(金・祝)、西三河3月22日(日)に行なわれる予定です。ぜひ出席していただき、ルールの確認、各競技会での諸問題や運営方法等について話し合い、理解を深め、協力体制を整えていただきたいと思います。

	名古屋	尾張	西三河	東三河
男性	12	6	9	1
女性	10	4	5	0
合計	22	10	14	1

(榊原 茂)

強化委員会

スタートラインに位置した選手、跳躍ピットに立った選手、サークルに入った選手、愛知のユニフォームをまとった選手は全てベストを尽くしました。しかし、総合18位で予想の10位を下回る結果になりました。



国体にピークを合わせ、力を発揮した選手は自己ベストを更新してすべて入賞を果たしました。中でも少年A男子400mHに2位入賞した山内選手(中京大中京)の50秒71は高校歴代9位、県高校新記録というすばらしい結果でした。また、大会トップバッターとして少年B女子砲丸投げに出場した近田選手(名城大附)は1投目に自己ベストを更新して入賞。全日本インカレに入賞し、好調を持続した成年男子200mの岡本選手(中央大)は20秒台突入のメ

ジャーデビューを果たしました。インターハイ200mチャンピオンの今井選手(至学館)は激戦の100mで、競歩の金田選手は粘りのレースで、共に自己ベストを更新し入賞しました。教員枠で成年女子走高跳に出場した松本選手(名東高教)は久々の教員枠得点者として特筆すべき活躍でした。本県出身で北京オリンピック代表の岩水選手(富士通)は、実力通りの力を見せ今大会唯一の優勝者となりました。ミーティングにおけるオリンピック選手としての講話は、ジュニア選手にとって心に残ったことでしょう。

総合上位県は、成年日本代表クラスの活躍で確実に上位入賞し、高得点を重ねる傾向にあります。優勝、上位入賞が期待できる成年選手が、個々の事情や故障で不出場であったことは、少年選手に負担を強いるものでした。インターハイで上位入賞した選手の不振や故障、選考辞退、ベストメンバーで臨めなかった男女リレー等多くの課題を残した大会でした。これら山積した課題を克服することが、来年度につながるものと確信しています。

大会期間中大声で応援頂いた国分理事長、深夜まで選手ケアに携わってくれたトレーナーの皆さん、激励に駆けつけてくださった愛知陸協の皆様、支援コーチの先生方、大会直前の故障で交代をお願いした関係チームの監督さん、各選手所属のコーチの皆様には厚くお礼申し上げます。
※別表国体報告参照 (p.13)

(北村 肇)

記録委員会

初冬を迎え、トラックシーズンから高校駅伝をスタートとして道路競技のシーズンに入りました。全国各地で開催される競技会の記録の収集に頭を痛める季節でもあります。

各支部記録委員長はじめ各委員のご尽力により、県内全てのトラック&フィールド競技会についてエブリバディ・デカロンを最後に日本陸連への記録公認申請を済ませることができました。大会ごとに記録をチェックし、整理をし

ていますが、今後の予定は10傑表の作成、日本陸連監修の100傑表、陸上専門雑誌社等への記録の提供を含め、最大限の注意を払って、1月上旬までに2008年度の記録集発行に向けて、新記録等の確認、10傑表の完成など再度のチェックをします。印刷、発行は3月上旬の予定です。

前号(第11号)以降に確認した新記録

県新記録

5000m 13.33.86 佐藤 秀和(トヨタ紡織)
KBC国際競技会(ベルギー)7月19日

県高校新

5000m 14.02.40 田中 秀幸(豊川)
静岡長距離強化競技会(小笠山)10月18日
1500m 4.21.13 伊澤菜々花(豊川)
全国高校総体(熊谷)7月30日
3000m 9.12.13 伊澤菜々花(豊川)
静岡長距離強化競技会(小笠山)10月18日
5000m 15.45.10 二宮悠希乃(豊川)
日体大長距離競技会(日体大)9月28日
ハンマー投 47.40 赤嶺 愛(起工)
愛知選手権尾張支部予選会(一宮)6月8日
100mYH 14.36 近藤 友美(中京大中京)
愛知私学祭(瑞穂)9月23日

県高校最高

十種競技 6540点 中村 明彦(岡崎城西)
エブリバディ・デカスロン(知多)11月8・9日

県中学新

800m 1.57.22 岡田 壮平(東港)
愛知ジュニア(瑞穂)8月31日
1500m 4.03.47 石黒 大介(今伊勢)
全日本中学選手権(新潟)8月20日
砲丸投(5.0kg) 14.63 清水 大樹(味美)
13.75 墨 訓照(木曾川)
全日本中学選手権(新潟)8月20日
100mYH 14.62 飯田 美咲(弥富)
14.94 冬頭 七海(菟山)
愛知ジュニア(瑞穂)8月31日
棒高跳 2.55 松下 琴子(千種)
名古屋支部中学新人(瑞穂)9月21日
2.60 毛利 綾華(千種)
名古屋支部選手権(瑞穂)10月18日

(岡田 武彦)

関係団体報告

小学生友の会

1 第39回ジュニアオリンピック大会

愛知県女子4×100mR ドリームチームが4位入賞

10月26日 日産スタジアム

中学校のコーチングスタッフだけでなく、小学生クラブ指導者にとっても喜びの時でした。メンバー4人のうち3人が全国小学生交流大会6年100mの'05年・'06年・'07年の愛知県代表だったのです。すばらしいドリームチームを紹介します。

第1走者 北野 有紀 愛知淑徳中1年

'07年代表 十四山少年少女体育クラブ

第2走者 森 佑紀那 長良中2年

'06年代表 なごや陸上クラブ

第3走者 山田 恵里 長良中3年

第4走者 家田 知佳 東浦西部中3年

'05年代表 知多TC

小学生のときに陸上競技の楽しさを知り、中学生になっても継続し、大きな実を結んでくれました。単独種目でも出場・入賞した元小学生友の会会員が何人も居ました。

このように元小学生友の会会員が、中学校・高等学校でも陸上競技に継続して取り組み結果を残してくれることを願っています。

これと同じようなケースが過去にあって、紹介もれがあったらお許しください。

2 第22回愛知県小学生陸上競技選手権大会

11月1日 瑞穂公園陸上競技場

新記録樹立者 (PR:県記録、GR:大会記録)

PR・GR 6年女子4×100mR 52秒78 安城ジュニア陸上クラブ

勝田 萌 河合詩菜 内藤 彩 伊藤佳奈

PR・GR 6年男子4×100mR 50秒23 安城ジュニア陸上クラブ

川端健太 木村遼太 丸山侑輝 遠藤侑汰

3 事業の予定

①小学生クラブチーム指導者研修会 2月上旬の予定

②“日清食品カップ”第11回 全国小学生クロスカントリーリレー研修大会 代表チームが出場

平成21年3月22日(日)

大阪・万博記念公園特設コース

(大矢 新吾 村上 叡治)

中小体連

トラックシーズンを終えて

10月24日(金)～26日(日)までの3日間、日産スタジアム(横浜市)でジュニアオリンピック陸上競技大会が開催されました。Bクラス男子100mに出場した鈴木祐太選手の優勝(10秒99)をはじめ多くの選手が入賞(8位以内入賞者15名)することができました。特にBクラス(中学2年生)の選手の活躍が目立ち、来年の全国大会での活躍が楽しみです。また、県選抜リレーチームの男子は10秒台の選手を2名擁する千葉県との接戦の末に2位に、女子(北野・森・山田・家田)は調整不足を克服し、4位に入賞することができました。全国優勝という目標は達成できませんでした。全国優勝という目標は達成できませんでした。

<第39回 ジュニアオリンピック 10/24～26>

日産スタジアム 3位入賞者>

B男子100m 鈴木 祐太(本郷) ① 10.99

B男子走幅跳 青山 耕也(森孝) ③ 6.56

C男子100mH 三浦 成皓(富貴) ③ 14.54

ABC男子4×100mR

掛川 真(豊明栄)・渡辺 将志(豊橋陸上ク)・

笹田 康弘(東海)・鈴木 祐太(本郷) ② 42.91

AB女子ジャベリックスロー 高塚 裕子(保見) ③ 50.97

B女子100mH 谷 優奈(保見) ③ 14.48

B女子走幅跳 浅井 真子(城北) ③ 5.41

ジュニアオリンピックを最後に今年度のトラックシーズンが終わりました。県中学新記録6つ、県レベルでの大会新記録8つというとても充実したシーズンになりました。

今後行なわれる国体強化合宿や各地区強化練習会で体力・技術レベルをさらに向上させ、来シーズンの活躍を期待したいと思います。また、全国中学校体育大会・ジュニアオ

《大分国体》参戦記

さかえクリニック T.C 山崎由加里 (100mH 7位)



国体は個人の試合とは違い、「チーム力」も求められます。個人の揺るがない強い意識とその姿勢が、チームを活気づかせ、盛り立てます。私も女子キャプテンとして、結果を求められる成年として、愛知県に加点することを目標に臨みました。

高い意識を持って臨むには、諸先生方を初め、支えていただいているチームや家族の存在は大きいです。今後も感謝の気持ちを忘れず、走り続けていきたいと思っています。

愛知淑徳高 水口 小夜 (400m 6位)



私はインターハイのリベンジという気持ちで国体に臨みましたが、とても悔しい結果に終わってしまいました。しかし、都道府県対抗で様々な年齢の方が集まる国体は独特な雰囲気であり「貴重な体験が出来た」とうれしく思います。普段はライバルである他の学校の仲間と協力し合って戦えたことや先生方のサポートに感謝しています。また出場できるようにこれからも頑張ります。

岡崎城西高 中村 明彦 (走高跳 4位)



今回の国体は、優勝記録が2m06、入賞ラインが2m00とレベルの低いものとなりました。自分の体調も良く、優勝を狙っていたのですが、2m03という記録で4位となってしまいました。今年は混成競技と重なることが多く、走高跳だけに専念できるチャンスが少なかったため、とても残念です。

大学に進学してからは、混成の強いハイジャンパーではなく、走高跳の強い混成競技者として、更なる高みを目指して精進していきたいと思っています。

中京大中京高 鈴木 雄貴 (三段跳 6位)



私は、以前国体選手として試合に挑むチャンスをいただきました。しかし、自分本来の競技ができず、愛知県代表としての役目を果たせませんでした。今回はその悔しい思いもあり、気合いを入れて挑みました。結果、6位に入賞することができました。このような結果が残せたのは、両親、北村監督、二村コーチ、愛知県選手団の先生方、トレーナーさん、そして、仲間達のおかげだと思っています。感謝しています。

これからも慢心せず、努力していきます。

豊川工高 金田 淳志 (5000mW 8位)



私は、長距離を専門にやっています。しかし、故障をしてしまい、リハビリとして歩き始めました。普段の歩き方から座る姿勢、階段の昇り降りなど小さな積み重ねをしていました。また、周りの方々の応援やサポートがあり、試合で自分の力を発揮して、8位に入賞することができました。愛知県に得点を入れられ、競技を続ける中で良い経験をさせていただいたので、これを冬の駅伝シーズンに繋げていきます。

名東高 教諭 松本明日美 (走高跳 7位)



私は今回教員枠選手として国体に参加させていただきましたが、久しぶりの全国大会はとても良い経験になりました。選手としてももう少し愛知に貢献したかったという思いは残りましたが、国体を通して同じ愛知チームの選手たちと出会えたことは、私にとって大きな刺激になりました。来年も国体を選んでいただき、次は上位入賞ができるよう頑張りたいです。

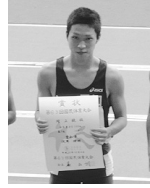
名城大附高 近田 茜 (砲丸投 6位)



私の国体に出場するうえで目標は、ベストを尽くすことでした。愛知県の代表というプレッシャーは大きかったのですが、でもそれ以上に陸上仲間の応援や先生方の声援に背中を押され、頑張ることができました。

「1投目に絶対にベストを飛ばしてやろう!」と思っていたので、試合前も集中することができていたと思います。今回この大分国体を経験することができて、来年からの試合に向けての経験が積めたと思いました。

栄徳高 浅野 伸明 (100m 7位)



僕は、少年B100mに出場しました。結果は7位で、嬉しい反面、悔しい思いもあります。

嬉しいのは初めての国体で入賞できたことで、悔しいのは事前のランキングでは3位だったのに、結果が7位だったことです。

今回、コーチの先生方の指導や周りの人の応援のおかげで入賞できたと思うので、本当に感謝しています。これからも期待に応えられるように頑張りたいと思います。

中京大中京高 山内 博貴 (400mH 2位)



国体での走りは、自分が今までやってきた中で最高の走りができました。夏に行なわれたインターハイでは、精神的な弱さから自分の走りができず、満足できる結果ではありませんでした。今回は更に厳しい練習に耐え、とにかく気持ちを強く持つようにしました。おかげで、自分でも驚くほどの大幅なベストを出すことができました。これも家族全員のサポートと顧問の北村先生のご指導のおかげです。

豊川工高 小島 秀斗 (3000m 6位)



今回、国体に出場させていただき、手応えと自分に足りない部分を見つけることができました。全国レベルの仲間と生活をしていく中で、様々な刺激を受けることができました。初出場の国体で緊張もありましたが、愛知県選手団の方々、家族のサポートと応援のおかげで、6位に入賞することができました。

駅伝に向け、勝てなかったライバルたちに勝つために、自分の長所を伸ばし、足りない部分と弱点を強化していきます。

リンピックリレーでの更なる活躍のために、今以上のジュニア部への強化・普及面での支援をよろしくお願ひします。
駅伝・長距離シーズン到来

11月15日(土)に豊田市運動公園で県中学校駅伝大会

が行なわれました。男子の部では、3区から独走状態になった六ツ美北(岡崎市)が、昨年度までの最高記録57分16秒を大きく上回る56分31秒で優勝しました。2位には終盤追い上げた石巻(豊橋市)、3位には矢作(岡崎市)が

入賞しました。また、女子の部では序盤から好位置でレースを進め、5区アンカーで逆転した杓掛（豊明市）が優勝しました。杓掛は大会4連覇となり、前林（豊田市）の6連覇（第50回～55回）につぐ偉業を成し遂げました。2位には4区までの健闘が光った平坂（西尾市）、3位には水無瀬（瀬戸市）が入賞しました。（鈴木 秀樹）

高体連

去る10月25・26日の2日間、三重県伊勢市の三重県営総合陸上競技場において東海高校新人大会が行なわれました。県内選手の成績は別表のとおりです。ここ最近の傾向ですが、男女ともトラック種目の活躍が目立ちます。この大会は、来年の東海高校総体の目安となる大会で、場所も同じ競技場で行なわれます。この中から、一人でも多くの選手が、来年7月29日から奈良市で行なわれる全国高校総体に出場できるよう期待しています。また、惜しくも入賞できなかった選手も、来春に向けて冬季練習をがんばり、全国高校総体を目指していただきたいと思います。

11月2日には、知多運動公園陸上競技場を発着点として、県高校駅伝競走大会が開催されました。大会結果は別表のとおりです。男子優勝の豊川工業高は見事に11年連続優勝を達成しました。また、女子優勝の豊川高は県高校最高記録・大会新記録で見事2連覇を成し遂げました。この両校は、12月21日に京都市で行なわれる全国高校駅伝競走大会に、愛知県代表として出場します。特に女子の豊川高は、優勝を十分狙えるチームだと思います。また、男子の豊川工業高は、5年連続入賞を目指してがんばってほしいと思います。両チームの健闘を祈ります。

知多市で会場をお借りして県高校駅伝競走大会を開催するようになって、今年で29年になりました。この間、毎年お世話になっている知多市・知多市教育委員会・知多警察署・知多三四会（コース沿線の各企業の組合）及び愛知陸協の江藤照雄氏にはこの紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

11月23日に岐阜県庁前を発着点として、東海高校駅伝が開催されました。県内参加校の成績は別表のとおりです。今回は、女子が記念大会ということで、各県優勝校を除いた最上位の高校が地区代表（東海）として、全国高校駅伝に出場できます。その栄誉を、今大会2位に入賞した豊川工業高が勝ち得ました。したがって、豊川工業高は男女アベック出場ということになりました。ぜひ、男女とも全国大会で活躍されることを祈ります。（大島 修）

平成20年度東海高校駅伝大会成績（愛知県分）

平成20年11月23日（日）

岐阜県庁スタート～羽島市小熊町折返し

男子			女子		
順位	学校名	記録	順位	学校名	記録
2	豊川	2.07.11	1	豊川	1.07.56 (大会新)
4	豊川工	2.07.43	2	豊川工	1.10.28
11	愛知	2.13.30	3	中京大中京	1.11.33
13	弥富	2.14.06	9	光ヶ丘女子	1.13.49
14	愛工大名電	2.14.18	10	人環大岡崎学園	1.14.00
15	岡崎	2.14.20	18	名経大高蔵	1.15.47

区間賞

男子				女子			
区間	氏名	学校名	記録	区間	氏名	学校名	記録
2区	小島 秀斗	豊川工	8.32	1区	二宮悠希乃	豊川	19.16
3区	マチャリア ヴォセフ ムンガ	豊川	23.33	2区	伊澤菜々花	豊川	12.51

男子				女子			
6区	水野 眞治	豊川工	15.04	3区	鷺見咲也加	豊川	9.51
7区	小久保雄太	豊川	14.58		小林 愛実	豊川工	
※男子3区、女子1・2区は区間新				4区	松平 結奈	豊川	9.55
				5区	下村 環加	豊川	16.03

高体連定通部



爽やかな秋空の下、秋季大会が知多運動公園陸上競技場で行なわれた。開会式では荒木伴哉（科技高刈谷）が力強い選手宣誓をした。総合成績—男子は科技高刈谷が8年連続優勝、女子は市立豊橋高が2年ぶり2回目の優勝を飾った。参加者は春の県総体より少ないが、来年の全国大会をめざして、記録への挑戦となった。来年の全国大会を見据えて注目の選手にスポットを当ててみた。男子—400m（52秒5）・800m 1位の荒木伴哉は、記録が安定してきて全国優勝が期待できる。1500m・5000m 1位の三浦誠は着実に力をつけ、15分台も期待できる。2000mSC 1位の里村隆幸は大会新記録、来年度は3000mSCに変更されるが優勝に一番近い選手である。女子—100m・200m 1位の鈴木優華の走りは、愛知短距離の復活が期待できる。400m 1位の山田千絢は種目を変更しての挑戦だったが、上位入賞が近づいた。100mH・走幅跳 1位の櫻井京子は2種目入賞をめざしてほしい。（以上の選手は全て科技高刈谷）800m・3000m 1位の春名恵里（豊橋高）は、1年生ながら全国入賞した経験を活かして上位への入賞が期待できる。（松橋 政人）

全国定通大会 最優秀選手賞 松橋 七恵（科技高刈谷）

今年の全国大会は、私にとって3年間の集大成でした。これまで2年間悔し涙を流してきた400mは「今年こそ、今年しか」を心に臨みました。夏とは思えない寒さの中での決勝は、今までの練習をお守りに、仲間のいるゴールを必死で目指しました。「優勝！」言葉にはならない嬉しさが笑顔になり、涙が止まりませんでした。800mでは、男子との冬の練習が力となり、粘りの走りと得意のラストスパートで優勝。そして唯一団体競技のリレーでは、全員の思いを繋いで3位。喜びは3位以上でした。これらの成果は、多くの人の応援と支えがあったからこそ得られたものと思います。北京五輪に負けないくらい盛り上がった定通制全国大会。多くの人に出会い、たくさんの喜びと悔しさ、楽しさを感じました。高校生活最後の大会で最優秀選手賞に選ばれ、今まで支えてくれた多くの人たちに感謝の気持ちでいっぱいです。



学連

台湾の学生陸上競技界との親善交流試合

東海学連の強化の活動状況

1 海外遠征について

東海学連では、毎年、日本陸連と関東学連等が行なっているヨーロッパ遠征に東海学連からの選手派遣をお願いし、海外経験を積ませている。今年は小山真輝（100m ベスト記録 10秒48：岐阜経済大）を7月11日～19日の日程でベルギー、スイスに派遣した。また西川生夏は、日本陸連のU23の派遣メンバーとして同時期にヨーロッパ遠征に派遣され、転戦した。

東海学連として、3年に一度は選抜メンバーで海外遠征

を行なうこととなり、本年3月21～25日に台湾遠征を実施した。参加選手は、昨年の秋季選手権（10月13、14日）の各種目上位選手1名ずつに加え、自費参加選手と役員あわせて総勢59名での遠征であった。東海学連選抜選手としての立ち居振る舞いには未熟な点多々感じられたが、海外の選手と競技することにより、強化へ役立たせるいい経験となった。また、意識レベルの向上を図り、さらにはオール東海としての意識の醸成を図るという当初の目的も十分達成できたように思われた。今回の台湾遠征は、台湾田径協会の格別の協力により実現したものであり、今後も互いに競技力の向上と親善を図ることを目的として、第35回東海学生秋季選手権大会に招待したことから実現した。

台湾からの参加選手は、学生選抜チーム・国立台湾体育学院（台中）役員8名、選手38名、総勢46名の参加であった。この中の役員3名（団長・陳進龍氏、総務・戴世然氏、コーチ・林明宏氏）が本連盟出身者であり、2名のオリ

ピック選手も競技会に出場し、双方ともに親善と交流を深めることができた実りある大会となった（競技成績は東海学連ホームページを参照）。

このように、様々な国際的な経験を積ませることを、東海学連としては意義ある大切な機会ととらえ、今後も積極的に支援していきたいと考えている。

2 ブロック別強化練習会、合宿の開催

今年度から強化の一環として、強化委員会の委員の先生方が中心となり、ブロック別の強化練習会、合宿を開催している。今年度は、9月の全日本インカレに向け、東海学連として東海地区全体のレベルアップを目指すという趣旨によりスタートしたものである。現在までに行なわれた練習会などの各ブロックの担当は、以下の通りである。

短距離・リレー：杉本（浜松大）、棒高跳：木越（愛教大）、走幅跳・三段跳：小倉（岐阜経済大）、長距離：金尾（名古屋大）

学校紹介② 岡崎城西高校 祝インターハイ優勝、入賞



今年のIHで2種目に優勝（中村明彦選手＝8種競技 河澄真子選手＝走高跳）、2種目に入賞（市川華菜選手＝100m 7位、200m 4位）を果たした岡崎城西高校陸上部を訪ね、短距離、跳躍を中心に宇野先生、夏目先生からお話を聞きました。（左写真）

岡崎城西高校の強さは、まずは部員数の多さにその理由が求められるようです。部員数は、1年生から3年生まで総勢121名。パートに分かれても、パートによっては他校の部員数より多いだろうと思われる人数です。これだけ人数がいると選手になるのも大変だと思われるのですが、その点を宇野先生にお聞きしてみると、今年は女子の走高跳の4番手・5番手の選手でもインターハイに出場できたという事でした。この人数が切磋琢磨して練習するのですから、自然と練習は質の高いものとなっていくのでしょうか。宇野先生のお話でも、練習の主眼は質の高さにあるとのことでした。



練習風景

2つめには、充実した指導体制を挙げることができます。若杉先生：総括、棒高跳、長距離 渡辺先生：長距離 宇野先生：跳躍、女子短距離 夏目先生：投擲 山本さん（外部コーチ、水・金・土の週3日）：男子短距離 これだけスタッフの人数があれば充実した指導が行なえるのも当然だと思われるのですが、練習を拝見しておりますと、指導の充実スタッフの人数によるものだけではなくと見受けられました。それぞれの先生が選手一人一人をよくご覧になっているのです。城西高校は300mの全天候型のトラック（5レーン）で練習をしているのですが、毎日全天候型のトラックで走っていると疲労が溜まって故障しやすいのではと不安を抱いてしまいます。その点を宇野先生にお尋ねすると、やはり毎日スパイクを履かせているわけではないとのことでした。そして付け加えておっしゃるには、生徒の状態を確認したうえでスパイクを履かせるかどうかを決めるということで、そのためにはそれぞれの担当者が必ずグラウンドに出て生徒を見ていないといけないとのことでした。

「練習の秘訣は」とお聞きしてみると、特別なことはないがという中にも、全天候型のトラックでの練習に関わって書き記しておくべきことが2つありました。

1つは、基礎体力の充実です。入学当初の1年生は全天候型のトラックでの練習で、やはりシンスプリントに陥りがちだそうです。そこで、補強には十分時間をかけているとのこと。また、地の利を生かしたアップとダウンが下半身の強化に役立っているそうです。グラウンドのすぐ西を流れる矢作川の土手を走ることがそれで、内容は100mのシャトルランです。アップでは45秒ペースで10本、20秒ペースで5本。ダウンでは45秒ペースで15本の計3km。毎日の繰り返しの中で、全天候型トラックに負けない体作りができています。

もう1つは、正しい動きを身に付けることの指導です。宇野先生は、反発の強い全天候型トラックで練習していても正しい動きをしていれば故障は起こさないもので、トラックから最も効率よく反発を受ける動きを身に付けることで自然と記録が向上していくのだとおっしゃっていました。特別なことではないかもしれませんが、やはり、基本に忠実ということではないでしょうか。こうしたことが、中学時代に2m台だった記録を5m00まで伸ばして県の新人戦で優勝する棒高跳の選手のような部員を育てているのでしょうか。

これも強さの理由ではないかと思われたことを書き記しておきます。外来者である私は、グラウンドで何度も「こんにちは」と気持ちのよい挨拶を受けました。また、県の高校駅伝を控えた長距離ブロックのミーティングでは、全員が顔を上げて渡辺先生のお話を聞く姿を目にしました。人間教育がしっかり行なわれていることが、強さにつながっているのだと思います。象徴的だったのは、クラブハウスの入口に並べられたシューズです。城西高校陸上部の人間教育は、右の写真が物語っていると私には思われました。

これだけ基盤のしっかりした城西高校陸上部は、来シーズン以降も充実した活動が続いていくことでしょう。来年のインターハイでの活躍が、また期待されます。

（文責・聞き手 大西 敏功）



整然と並べられたシューズ

3月に台湾遠征を挙げて以来、東海学連内の選手達の士気も高まり、また連携も深まっている。指導者も含めて大学の垣根を越えて、オール東海でみんなががんばっていく雰囲気となっており、こうした練習会などの複数開催は非常に意義深いと思われる。ぜひとも継続的に実施していきたい。(安藤 好郎)

実業団

実業団のトラックシーズンも10月18日(土)の実業団・学生対抗(小田原)で全て終了した。この大会は、このところ実業団連合の連勝が続いており、学生連合としても今回は保利耕輔会長も終日観戦され、インカレ上位入賞者を参加させるなど力の入れようが感じられた。また、河野洋平会長も大会観戦に訪れた。結果は実業団側に総合および男子女子共凱歌が上がった。

11月に入り毎週のように各地でロードレースや駅伝大会が開催されている。11月3日には、淡路島で四実業団連盟(中部・関西・中国・北陸)合同女子駅伝が開催された。

中部連盟の結果は1位デンソー・2位ユタカ技研・3位スズキ・4位小島プレス・5位愛知電機の成績であった。今大会の結果により、12月14日(日)岐阜で開催される全日本実業団女子駅伝には、上位4チームが出場資格を獲得した。中部連盟の代表として大いに期待したい。

これまで18回を数える淡路島での女子駅伝は幾多の名選手を輩出し、ドラマが繰り広げられてきた。しかしながら参加チームの減少やチームの経費負担増などなど様々な問題点が顕在化してきた。現状を考慮し、今後のあり方、開催地の問題等を含め、関係方面と今後議論していくことになるだろう。

中部実業団対抗駅伝が、11月9日(日)に下呂市で開催された。前日には鈴木修会長主催のもと、大会関係者の多数の参加を得て、前夜祭がなごやかなうちに催された。

成績は優勝がトヨタ紡織、以下トヨタ自動車、NTN、愛知製鋼、スズキ、愛三工業、の順位であった。上位6チームが来年の元旦に行なわれるニューイヤー駅伝(群馬)への出場権を得た。女子同様更なる活躍を期待したい。

現在、米国を震源とする経済不況の中にあり、実業団チームの活動についても大変厳しい環境に置かれている。フルタイム勤務で精一杯の努力をしている選手も多数いる。幸いにも恵まれた環境で取り組んでいる選手、千差万別であるが、それぞれの立場で「競技ができることへの感謝の気持ち」を持ち、旧態依然とした取り組みではなく、努力精進してもらいたいものである。

(樋高 勇二)

マスターズ陸上

心豊かな長寿社会への貢献役

今シーズンの全国大会の愛知県選手の活躍状況を報告します。マスターズ陸上の目的は競技成績のみではないのですが、競技である以上各自のレベルにおいて目標を定め、練習に励み、大会に出場していますので、紙面の都合上ここでは主な成績を紹介します。

9月26日～28日、宮崎市の生目の杜運動公園陸上競技場で開かれた第29回全日本マスターズ陸上競技選手権大会には、愛知から48人が参加しました。48人の参加者数は、全国で6番目に多い参加者となりました。

この大会では、15人が25種目で1位となりました。特

に女子の活躍が際立っており、加藤敦子(豊川市)がハンマー投で日本記録を更新して1位のほか、砲丸投、円盤投でも1位、中山淳子(名古屋市)が3000mで大会新記録で1位のほか、800m、1500mでも1位となり、2人とも3冠を達成しています。その他確井由紀子(豊川市)が200m、400m、家田馨子(南知多町)が走幅跳、三段跳、山田美智(大府市)がハンマー投、やり投で、それぞれ1位となり2冠を獲得しています。また、リレーでは2種目で1位を獲得しました。

男子では、野澤正治(西尾市)が400mと800m、鈴木一郎(豊田市)が1500m、3000m、山田博嗣(豊田市)が砲丸投、ハンマー投でそれぞれ1位となり、3人が2冠を獲得しています。

10月19日から21日まで大津市の皇子山陸上競技場で開かれた第20回全国スポレク祭は、佐藤武夫監督(稲沢市)以下20人の選手が代表として参加しました。

10月下旬とは思えない暑さの中で選手は健闘し、7人が9種目で1位となりました。そのうち男子では鈴木一郎(豊田市)が1500m、3000m、女子では中山淳子(名古屋市)が1500mと3000mの2種目で、ともに2位以下を大きく引き離す圧勝で2冠を達成しています。

2009年9月に開催する第30回記念国際・全日本マスターズ陸上競技選手権大会愛知実行委員会の設立総会が、10月16日愛知県スポーツ会館で開かれ、会則、役員、事業計画、収支計画、実施要項、ポスター図案の6議題が議決され、準備も本格化してきました。皆さんの一層のご支援、ご協力をお願いします。

(佐野 昭二)

愛知陸協 OB 会



11月20日、恒例のOB会秋の行事が開催された。今までにない40名の会員の参加で紅葉と雪景色を堪能しながら、鳥崎藤村のふるさと「馬籠宿」散策と信州中川村でのりんご狩りを楽しんだ。

8時50分名古屋駅新幹線太閤口広場を出発したバスは、名古屋高速・中央道を通して、中山道63宿の43番目の宿場町・馬籠にて1時間余りの散策。全長600m余りの坂道に昔を偲ばせる家々が立ち並び、出迎えてくれる。石畳や路地を流れる小川のせせらぎと水車が紅葉とマッチし、行き交う旅人にその風情を高めてくれた。馬籠を後にして昼神温泉「湯元阿智川」で昼食と入浴。PH9.8の湯船につかり、日ごろの疲れもすっきりと…。温まった体に外の空気は一層冷たく感じられたが、りんご狩りする姿・まなざしは、気温の低さを感じさせない熱気に包まれ、生き生きとしていた。満足感を味わえたひと時であった。帰りの車中では、カラオケに花が咲き、日ごろの練習の成果を披露した。名古屋到着18時。世話人の努力により、楽しい一日を無事に過ごすことができた秋の行事であった。

なお、次回新年の行事は、西三河支部の担当で1月23・24日(金・土)桑谷山荘にて実施予定。多くの参加を…。(村瀬雄一郎)



競技会報告

第22回愛知県小学生陸上競技選手権大会
平成20年11月1日(土) 瑞穂公園陸上競技場

少年 PR: 県記録 GR: 大会記録

種目	1位	2位	3位
4年50m	伊藤 壮太 7.53 田原陸上クラブ	永谷 礎汰 7.54 三河安城クラブ	川崎ライオン 7.71 新田 TFC
5年100m	松村 義樹 13.65 AC一宮	石田 雄真 13.69 JAC武豊	若杉 俊佑 13.81 安城 JAC
6年100m	木村 遼太 12.39 安城 JAC	秋江 洋志 12.42 AC一宮	吉戸 鉄人 12.93 豊橋陸上クラブ
5年80mH	石川 拓磨 13.97 JAC武豊	大橋 立樹 15.59 安城北部 AC	吉田 有陽 15.60 豊川陸上教室
6年80mH	岩崎 聖 12.58 なごや陸上クラブ	大谷 樹矢 12.74 田原陸上クラブ	伊藤 友明 12.86 千代田橋 AC
4×100mR	安城ジュニア陸上クラブ 50.42 PR・GR 川端 健太 木村 遼太 丸山 侑輝 遠藤 侑汰	安城作野 AC-A 52.32 伊藤 拓真 石樽 航 村瀬 雅季 中島 豪	AC一宮 52.32 小島 勇人 秋江 洋志 伊藤 勉 河村 将克
5年走高跳	加藤 峯規 1.25 今池 AC	杉浦 利駆 1.25 作野 AC	大橋 拓馬 1.25 千代田橋 AC
6年走高跳	岡田 徹也 1.45 安城西部 AC	近藤 雅哉 1.40 岡崎 JAC	鈴木 雄大 1.35 なごや陸上クラブ
4年走幅跳	峰田 拓実 4.09 新城陸上教室	建部 歩 4.07 新城陸上教室	小山内天希 3.85 田原陸上クラブ
5年走幅跳	高須 翔生 4.57 安城北部 AC	島山 昂大 4.38 田原陸上クラブ	岩崎 悠利 4.25 へきなんクラブ
6年走幅跳	森下 堅太 4.56 JACあつみ	近藤 俊樹 4.50 布袋陸上クラブ	井野 貴斗 4.44 片葩 AC
5年ソフトボール投	肥田木貴大 53.55 安城南部 AC	水谷 混希 51.11 桜町クラブ	杉浦 大樹 48.84 安城明和 JAC
6年ソフトボール投	荻野 佑 64.87 新田 TFC	彦坂 和希 63.48 錦町陸上	辻村 篤也 58.99 岡崎 JAC
二種競技 A	富田 啓介 1333 田原陸上クラブ	渡辺圭一郎 1300 なごや陸上クラブ	伊吹 悠斗 1197 安城北部 AC
二種競技 B	伊藤 勉 1449 AC一宮	光武 悠吾 1361 JAC大府	芳賀ピラル海 1341 豊橋陸上クラブ

少女 PR: 県記録 GR: 大会記録

種目	1位	2位	3位
4年50m	掛川 栞 7.60 JAC大府	釜田 留奈 7.94 なごや陸上クラブ	木俣 結子 7.95 三河安城クラブ
5年100m	中野 真琴 13.99 豊橋陸上クラブ	北川 瑠菜 14.24 安城 JAC	野村 彩加 14.27 安城 JAC
6年100m	鷺見 梓沙 13.30 JACとよあけ	勝田 萌 13.46 安城 JAC	内藤 彩 13.53 安城 JAC
5年80mH	北野喜里帆 14.16 十四山体育クラブ	松井 紗良 14.68 豊橋陸上クラブ	川治 柚葉 14.71 安城北部 AC
6年80mH	榊原 海紗 13.71 へきなんクラブ	志村 梨紗 14.00 蒲郡クラブ	杉浦 侖奈 14.04 田原陸上クラブ
6年4×100mR	安城ジュニア陸上クラブ 52.78 PR・GR 勝田 萌 河合 詩菜 内藤 彩 伊藤 佳奈	田原陸上クラブ A 55.31 眞田 純奈 佐藤 菜穂 中尾真理子 鶴崎 那美	JACとよあけ 56.81 雨宮 菜咲 近江 彩乃 下村 怜伽 鷺見 梓沙
5年走高跳	大久保珠美 1.30 新田 TFC	金子 梓 1.28 豊橋陸上クラブ	鈴木 麻央 1.15 田原陸上クラブ
6年走高跳	加藤 優希 1.40 桜町クラブ	城越 美那 1.40 JAC大府	近江 彩乃 1.30 JACとよあけ
4年走幅跳	木村 七海 3.62 安城北部 AC	長屋 美月 3.62 なごや陸上クラブ	熊崎 円香 3.54 布袋陸上クラブ
5年走幅跳	鈴木 千陽 4.12 新城陸上教室	柴田 萌 3.88 田原陸上クラブ	荒井 聖奈 3.85 JAC武豊
6年走幅跳	山下 瑞季 4.62 YOUKI陸上	佐藤 愛 4.32 千代田橋 AC	神谷和花奈 4.19 錦町陸上

5年ソフトボール投	守口 陽美 43.68 安城北部 AC	田中 朱音 41.45 二本木 AC	中島 唯 39.98 錦町陸上
6年ソフトボール投	大参 花菜 48.02 安城中部 AC	中村 彩花 45.23 豊橋陸上クラブ	増田ひとみ 43.71 二本木 AC
二種競技 A	市川実乃梨 1558 蒲郡クラブ	古沢みのり 1510 なごや陸上クラブ	木戸 麻香 1459 JACあつみ
二種競技 B	藤崎 望 1761 半田 Jr.TC	伊藤 南侑 1625 とよた AC	岩川 沙紀 1489 田原陸上クラブ

男女混合 PR: 県記録 GR: 大会記録

種目	1位	2位	3位
4年4×100mR	田原陸上クラブ A 1.00.22 鈴木 麻妃 後藤 有砂 渡会 康貴 伊藤 壮太	安城作野 AC-A 1.00.62 村原由樹子 中村 奈緒 米澤 悠大 高井 拓海	田原陸上クラブ B 1.00.66 久保田真由 霜山 愛美 小山内元希 和田 瑞輝
5年4×100mR	安城ジュニア陸上クラブ 55.99 樋口 円華 北川 瑠菜 中津 遙太 若杉 俊佑	豊橋陸上クラブ A 56.41 村松 風香 中野 真琴 加藤 尚也 黒田 玲央	田原陸上クラブ 57.21 宮下 侑奈 牧野 佳依 畠山 昂大 武田 真人

第11回東海高等学校新人陸上競技選手権大会
平成20年10月25日(土)~26日(日)

三重県営総合競技場

[男子] (3位以内入賞・県分のみ)

種目	順位	氏名	校名	記録
100m	1	三輪 将之	中京大中京	10.77
	3	三浦 豊成	名古屋	10.99
200m	1	浅野 伸明	栄 徳	21.89
	2	三輪 将之	中京大中京	22.02
	3	田村 朋也	名古屋大谷	22.21
400m	2	壁谷 智之	岡崎	49.06
800m	1	山本 龍	岡崎城西	1:56.61
1500m	2	白井 成司	豊橋南	4:04.80
	3	大島 貴弘	瑞陵	4:05.06
	1	山口 浩勢	惟 信	15:03.33
5000m	1	山口 浩勢	惟 信	9:16.12
5000mW	1	久保田泰典	至学館	22:13.18
	3	木村 洋介	弥 富	23:18.78
	1	中京大中京		41.49
4×100mR	2	名古屋		41.81
	2	岡崎		3:20.71
走高跳	2	山口貴由樹	横須賀	1.90
棒高跳	2	山本 聖途	岡崎城西	4.70
円盤投	2	杵本 皓貴	名古屋	44.50
ハンマー投	1	杵本 皓貴	名古屋	52.17
	2	一柳 英之	名古屋	51.69
やり投	2	小野 顕佳	名古屋	59.79

[女子]

種目	順位	氏名	校名	記録
200m	2	安保 真衣	瑞陵	25.53
	3	飯田 美妃	中京大中京	25.57
400m	1	安保 真衣	瑞陵	57.31
800m	3	市川ゆきえ	菊 里	2:19.72
1500m	1	鈴木 萌未	愛知淑徳	4:37.09
	3	南部 七海	旭 野	4:42.33
3000m	1	鈴木 萌未	愛知淑徳	9:52.25
100mH	2	近藤 友美	中京大中京	14.73
400mH	2	西尾真梨子	中京大中京	1:02.29
3000mW	1	前川 知美	岡崎商	13:28.64(大会新)
4×100mR	3	岡崎城西		49.06
4×400mR	2	中京大中京		3:55.33
	3	瑞陵		3:56.72

走高跳	1	炭 水土里	千 種	1.64
走幅跳	2	深谷 実咲	楢 山	5.41
砲丸投	3	近田 茜	名城大附	11.85
やり投	1	萩原 麻子	豊田大谷	43.71
	2	田中 真央	至学館	40.70

**第20回全国スポーツ・レクリエーション祭滋賀大会
愛知県代表選手成績結果 (1位のみ)**
平成20年10月19日(日)~21日(火) 皇子山総合運動公園陸上競技場 監督(佐藤) 武夫

氏名	住所地	年齢クラス	出場種目	記録
中嶋 育巨	豊橋市	M75	400m	1.17.34
鈴木 一郎	豊田市	M70	1500m	5.30.61
			3000m	11.51.38
大泉 通	東浦町	M65	1500m	5.25.29
柴田 成夫	岡崎市	M40	砲丸投	8.99
中山 淳子	名古屋市	W50	1500m	5.10.69
			3000m	11.16.88
山田 美智	大府市	W45	砲丸投	7.81
谷寄 好美	知立市	W40	200m	27.96

平成20年度愛知県高等学校駅伝競走大会
平成20年11月2日(日) 知多運動公園陸上競技場一
市道北浜金沢線 (男子 42.195km・女子 21.0975km)

順位	男子		女子	
	学校名	タイム	学校名	タイム
1	豊川工	2.08.17	豊川	1.07.22
2	豊川	2.09.56	豊川工	1.11.34
3	弥富	2.13.40	中京大中京	1.12.27
4	岡崎	2.14.12	光ヶ丘女子	1.15.13
5	愛工大名電	2.14.32	岡崎学園	1.15.43
6	愛知	2.15.06	名経大高蔵	1.16.17

(豊川女子は県最高・大会新)

優勝した豊川工(男子)・豊川(女子)と東海大会女子で準優勝した豊川工(全国大会が20回記念大会のため東海地区代表として)は全国大会(12/21・京都)へ出場。

第57回愛知県中学校駅伝大会記録

平成20年11月15日(土) 豊田市運動公園

[男子] 距離 18.05km (6区間) [女子] 距離 12.05km (5区間)

順位	男子		女子	
	学校名	タイム	学校名	タイム
1	岡崎市立六ツ美北	56.31	豊明市立沓掛	42.40
2	豊橋市立石巻	57.26	西尾市立平坂	42.28
3	岡崎市立矢作	57.44	瀬戸市立水無瀬	42.33
4	豊明市立沓掛	57.53	豊橋市立石巻	42.42
5	吉良町立吉良	58.13	豊田市立前林	43.30
6	岡崎市立甲山	58.23	豊川市立西部	43.90
7	岡崎市立葵	58.27	武豊町立富貴	43.14
8	豊川市立東部	58.27	岡崎市立竜海	43.26

優勝した六ツ美北、沓掛は全国大会(12/21・山口)へ出場

第26回レディース陸上競技大会開催の報告
2008年11月3日(祝・月) 瑞穂公園陸上競技場

第26回レディース陸上競技大会を、11月3日(祝・月)に瑞穂公園陸上競技場で開催しました。この大会は、日本

陸連が主催する全国大会で、「女子陸上競技の普及と競技力向上を目指し、併せて女性役員の競技運営能力と女性審判員の資質向上を図り、普及発展に寄与する」ことを目的として、毎年秋に開催されています。日本陸連女性委員会からの「参加者が集まりやすい愛知で大会を開催してほしい」との意向を伺い、開催することになりました。その意向どおり、今大会は全国42都道府県から個人種目1,144名、リレー154チーム、サブイベント16チームの参加をいただき、26回を数える大会の中でも、大変盛況なものとなりました。また当日の天候は曇、気温20度前後で風もなく絶好のコンディションにも恵まれ、4つの大会記録が生まれました。

愛知陸協が、平成6年の国体以来14年ぶりに開催したこの全国大会を、準備・運営面から振り返り報告します。

●競技・情報処理関係

申込期間を9月10日(水)~30日(火)とし、受付を行ないました。申込みのほとんどが締切り前の2日間に集中し、その処理作業(申込数と入金確認・ナンバー振り・不足書類と不足金請求・記入事項不備の問合せ・データ打込み)は、大変なものとなりました。

申込みが予想以上に多数となり、タイムテーブルの作成にはとても苦労しました。何度も検討を重ね、陸連にもご指導をいただきました。しかし個人22種目・リレー3種目(サブイベントを含む)を1日で終了させるには、日程が早朝より日没以降に及ぶのもやむを得ず、またとても過密なタイムテーブルとなりました。タイムテーブル決定後、スムーズな運営方法について検討しました。

プログラム原稿についても、「訂正のないプログラムを作成しよう」と、何度も原稿チェックを行ないました。このように大会前1ヶ月間は、連日深夜まで準備作業が続きました。

●審判関係

審判編成について日本陸連からは、当初より「女性審判員のみでの大会開催にはこだわらない」との指導をいただいております。しかし、女性審判員の起用・育成については大会の主旨にも挙げられ、愛知陸協がこの大会を誘致した一つの大きな目的でもありました。「1人でも多くの女性審判員に参加し、経験を積んでもらいたい」「みんなで大会を盛り上げたい」と願って取り組みました。しかし現実には、予想以上に女性審判員の確保ができず、困難を極めました。そこで「役員編成のうち主要部署・主任にベテランを配置し、大会当日まで女性審判員の指導・育成にご協力いただきたい」と再度提案を審判委員会にしました。また、岐阜陸協より女性審判員の研修依頼があったことから、東海の各陸協に女性審判員を5名ずつ派遣していただくことにしました。そして審判編成が確定したのは、大会も目前に迫った10月半ばでした。260名の編成のうち女性審判員は125名でした。その女性審判員の中には知識・経験の少ない人もおり、多くの方にご心配やご迷惑をおかけしました。しかし男性審判員の熱心な指導に支えられ、一生懸命仕事に取り組みました。

●施設・用器具関係

瑞穂公園陸上競技場の施設については、名古屋市・名古屋市教育委員会に共催をしていただけたことから、ナイター照明・大型映像装置等を含めてすべての使用料が無料になりました。これは、大会経費の面において非常にありがたいことでした。また用器具については、今大会の開催を考

平成29年度 第63回大分国体愛知陸上競技選手団結果

種別	種目	氏名	所属	記録	結果	得点	備考
成年男子	200m	岡本 勝太	中央大	21.00	4位	5	自己新
	3000m 障害	岩水 嘉孝	富士通	8.37.68	優勝	8	
	10000mw	杉本 明洋	ALSOK	失格			
	棒高跳	有木 健人	ハート&ハート	記録なし			
成年女子	200m	長崎 由佳	中京大	25.33	予選5着		
	100mH	山崎由加里	さかえクリニック	14.14	7位	2	
	走高跳	松本明日美	名東高教	1.69	7位	0.5	
少年 A 男子	100m	安井 一樹	豊田大谷高	10.91	準決勝7着		
	400mH	山内 博貴	中京大中京高	50.71	2位	7	県高校新/自己新
	走幅跳	中村 明彦	岡崎城西高	6.89	予選9位		
	三段跳	鈴木 雄貴	中京大中京高	14.61	6位	3	
	ハンマー投	津田 直紀	名古屋高	52.27	15位		
少年 A 女子	100m	今井沙緒里	至学館高	12.00	6位	3	自己新
	400m	水口 小夜	愛知淑徳高	56.74	6位	3	
	100mH	中川 涼子	中京大中京高	14.51	予選5着		
	ハンマー投	赤嶺 愛	起工高	43.98	13位		
少年 B 男子	100m	浅野 伸明	栄徳高	10.94	7位	2	
	3000m	小島 秀斗	豊川工高	8.36.46	6位	3	
	走幅跳	酒谷 昇吾	名古屋高	6.63	予選10位		
少年 B 女子	100m	山田 恵里	長良中	12.63	準決勝7着		
	100mYH	飯田 美咲	弥富中	14.64	準決勝5着		
	砲丸投	近田 茜	名城大附高	12.17	6位	3	自己新
少年男子共通	800m	杉田 祐平	中部第一高	1.55.05	準決勝7着		
	5000mw	金田 淳志	豊川工高	21.12.21	8位	1	自己新
	走高跳	中村 明彦	岡崎城西	2.03	4位	5	
少年女子共通	棒高跳	甲村 佳樹	三好高	4.40	16位		
	走高跳	河澄 真子	岡崎城西高	1.66	10位		
	円盤投	高木 美波	光ヶ丘女子	39.84	10位		
成年少年男子	4×100mR	田中 星二 岡本 勝太 安井 一樹 浅野 伸明	トヨタ自動車 中央大 豊田大谷高 栄徳高	40.51	準決勝4着		
成年少年女子	4×100mR	山田 恵里 市川 華菜 長崎 由佳 今井沙緒里	長良中 岡崎城西高 中京大 至学館高	46.73	準決勝6着		

男女総合 18位(45.5点) 女子総合 28位(11.5点)

慮して北陸上競技場のハンマー投げ囲いの前面パネル・ハードル・本競技場の電動棒高跳び支柱を新調していただきました。中でも電動棒高跳び支柱は1千万円近くもする高価な器具であり、全国の競技場で初めて導入されたもので、選手・コーチ・審判員の注目を集めていました（この後、国立競技場に導入予定とのこと）。初めてこの器具を使用した審判員は、「いままでのように動かなくてもよく、バーの上げ下げやアップライトの調節もボタンを押すだけなので、年を取ってからも審判ができそうです」と嬉しそうでした。



大会メインスポンサーであるニシスポーツからは、バックアップ用の写真判定装置・デジタルフィールド制限時間告知タイマー・光波距離測定装置ヘリオス・投てき用具返送車を無料でレンタルさせていただきました。中でも

投てき用具返送車は、昨年の大阪世界陸上の際に、長居競技場のフィールド内をマスコットを乗せて走り回っていたものです。「走って用具を戻さなくてもよいので、運営がとてもスムーズです」と投てき審判員は喜んでいました。

大会当日の瑞穂公園陸上競技場は、タータンと整備され

たグリーン芝生の芝生・大型映像画面のコントラストがとても美しく、それが日没以後は全灯の照明で映し出され感動的でした。

●財務関係

今大会のスポンサーには陸連のメインスポンサーの他に、共催をいただいた中日新聞社をはじめ、約60の企業等にプログラム広告のご協賛をいただきました。日頃から親交のあるリンナイ・飯田産業・中京大学等へ、愛知陸協の皆さんが依頼に回ってくださったお陰です。経済状況の悪い中、大会の主旨にご賛同いただき、ご協力をくださった各団体に心よりお礼を申し上げます。また、お忙しい中で依頼に回ってくださった愛知陸協の皆さんにもお礼を申し上げます。

●総務関係

日本陸連・県・県教育委員会・市・市教育委員会・県体育協会・中日新聞社への各種申請・報告等の書類を作成し送付しました。また瑞穂公園陸上競技場には、使用計画書・大会幕、スポンサー幕、ニシスポーツの出店申請・案内看板申請等の書類を作成し送付しました。全国大会を開催する際には、多数の書類作成が必要だと実感しました。

経費の関係で、日本陸連への連絡・確認・必要資料の請求は全て電話とメールで行ない、とてもスムーズに仕事が

できました。

大会の各種案内看板・各部屋の表示等については、経費の関係でほとんど手作りでした。他県の大会で見たものを参考にしてデザイン・サイズ・色を検討し、目に付きやすいものを作成しました。大会幕・スポンサー幕・陸連旗・名古屋市旗等の借用と返却。役員・選手等の宿泊・弁当の手配と確認。表彰物品の注文と納品確認。記念品のラベル貼り。プログラム原稿(協賛広告原稿・プレゼンター紹介・挨拶文等)の依頼と確認。準備作業は、8月ころより多忙を極めました。これらを全て、平常の日程(県ジュニアオリンピック・駅伝強化豊橋長距離・第2回駅伝強化長距離・ジャンプ競技会・スポレクマスターズ陸上・ジュニアオリンピック等の申込受付作業、また名古屋ハーフマラソンの要項発送と申込受付)と平行して行なわなければならない、皆さんの協力なくしてはとてできませんでした。

今大会は、陸連女性委員会の要請で、社会貢献の一環として乳ガン撲滅のピンクリボンキャンペーンを行ないました。これは昨年この大会を開催した際に、「10月が乳ガン撲滅月間であること」「その月にレディース陸上が行なわれること」を考慮して広島陸協が行なったものです。今大会でも継続して行ないたいとの意見に基づいて、実施方法等も含め検討し、実施することにしました。広島では、審判員・補助員・選手ともにピンクリボンを付けて乳ガン撲滅を訴え、募金活動をしました。しかし愛知では、名古屋市の条例違反になるとのことで募金活動は行なえず、ピンクリボンを身につけこの活動をアピールするにとどまりました。審判員・補助員・選手・監督コーチ用にピンクリボンシールを作成し、大会当日はこれを目立つところに貼り付けて大会に臨みました。参加選手が多数であったこと、これにより審判員と補助員数も大幅に増え、ピンクリボンシール作成も大変なものとなりました。実際には大会運営に手いっぱい、この活動が中途半端なものに終わってしまったことが心残りでした。

大会当日午後6時10分、ほぼタイムテーブルどおりに全ての競技を無事に終了することができました。多忙な準備や不十分な研修、当日の過密なスケジュールのため、部署内や関係部署間とのコミュニケーションがうまくとれず、審判や補助員の皆さんには大変な一日になりました。反省や改善すべき点はたくさんあると思いますが、これをきちんと分析し修正していければ、大会を開催した意義はとて大きいと考えます。問題となった女性審判員の参加率については、目標としていた50%に届くことはありませんでした。しかし「1人でも多くの女性に参加してもらいたい」との呼びかけに答え、新しい仲間が集まってくれました。14年ぶりに全国大会を開催し、皆さんが緊張感を持って生き生きと活動できたことも大きな成果になったと考えます。

大会後日、日本陸連事務局からメールが届きました。「愛知大会、最高でした。準備から大会当日の運営まで、ご尽力いただきました皆様に深く感謝いたします」とのことでした。北村肇強化委員長からは、「愛知のレディース陸上は、すばらしい大会でした。皆さんにものごくインパクトを与えたようです」との言葉をいただきました。

絶好のコンディションの中、多数の選手の方に喜んで参加していただけたこと、それだけでも今大会は大成功であったと考えます。今後はこの経験を生かし、選手のためによりよい大会運営ができるよう愛知陸協の皆さんと検討し、協力して

次に開催を予定されている全国大会に臨みたいと考えます。

最後に、ご指導いただきました日本陸連事務局女性委員会担当者、審判員のウィンドブレーカーの提供を下さったニシスポーツ、副賞のご提供を下さった中日新聞社、レディース陸上のポスターを作成し各店舗に掲示して下さったスギ薬局、優勝者に花束をご提供下さったミルクィ・ウェイ、大会のPRを流して下さったFM愛知、献身的にご協力下さった瑞穂公園陸上競技場の管理事務所職員の皆様、その他ご協力をいただきました全ての皆様に厚くお礼を申し上げます。(脇田 千鶴)

第26回レディース陸上競技大会の結果
2008年11月3日(祝・月) 瑞穂公園陸上競技場

	種目	順位	氏名	校名	記録
16歳以上	100m	3	市川 華菜 (3)	岡崎城西	12.24
	400m	1	今井沙織里 (3)	至学館	56.79
		5	服部 沙紀 (2)	一宮西	57.96
		6	松下紗矢香 (1)	瑞 陵	58.41
	1500m	3	林 亜沙美 (1)	光華女子大	4.36.79
	100mH	2	中川 涼子 (3)	中京大中京	14.37
		4	近藤 友美 (2)	中京大中京	14.53
		5	安藤由加里 (1)	中女大	14.62
	400mH	4	西尾真梨子 (2)	中京大中京	1.02.02
	3000mSC	5	加藤かなよ (2)	岡崎城西	11.45.66
	3000mW	1	前川 知美 (2)	岡崎商高	13.44.08
	走高跳	2	河澄 真子 (3)	岡崎城西	1.64
		3	炭 水土里 (2)	千 種	1.61
	三段跳	3	小川 詩織 (2)	中女大院	
6		岩川 歩美 (1)	中女大	11.77	
砲丸投	5	伊東亜優美 (3)	惟 信	11.99	
円盤投	5	高木 美波 (3)	光ヶ丘女子	39.30	
13 15歳	100m	1	森 佑紀那 (2)	長 良	12.56
		2	山田 恵里 (3)	長 良	12.59
		3	青柳 妃咲 (3)	安城北	12.75
	1500m	1	服部 優重 (2)	なごや陸上クラブ	4.47.23
		2	坂本弥佐都 (2)	上 郷	4.49.53
		3	稲垣 朱乃 (2)	東 山	4.51.70
		4	荘司 佑衣 (3)	水無瀬	4.51.99
		5	岩崎美希奈 (3)	桜 井	4.52.33
		6	荘司 麻衣 (3)	水無瀬	4.54.54
	100mJH	1	谷 優奈 (2)	保 見	14.63
		5	松井香保里 (2)	長 良	15.64
	走高跳	2	平松真由香 (3)	碧南南	1.56
		4	金原 智子 (1)	平 坂	1.50
		6	鎌倉実夢里 (2)	千種台	1.50
走幅跳	5	伊賀本里穂 (2)	矢 作	5.07	
砲丸投	4	安藤かすみ (1)	古知野	9.94	
	5	釜野 望 (3)	森 孝	9.90	
	6	中根 有那 (2)	六ツ美	9.69	
共通	4×100m	3	中京大中京		47.74
		4	岡崎城西		47.85
	100+200+300+400m	4	至学館		2.16.26
		5	中京大中京		2.17.12
サ サ ス ン ト (小 学 生)	4×100m	1	安城ジュニア陸上クラブ		52.99
		2	田原陸上クラブ		55.16
		3	岡崎 JAC		55.61
		4	JAC とよあけ		56.36
		5	豊橋陸上クラブ		57.02
		6	豊橋陸上クラブ		57.02

女子普及種目クリニック・記録会の報告

11月2日(日) 瑞穂公園陸上競技場



日本女子陸上の普及と競技力向上、記録へのチャレンジを目標として女子普及種目「3000m 障害・競歩・棒高跳・ハンマー投」のクリニックと記録会を、11月2日(日)に瑞穂公園陸上競技場にて開催しました。

このクリニックと記録会は、日本陸上競技連盟主催・日本陸上競技連盟女性委員会運営で年2回開催している内のひとつです。今回は、第26回レディース陸上競技大会の前日に開催することにより、大会参加者を含めてより多くの方に参加していただくことができました。

<3000m 障害>

参加者 クリニック3名 記録会1名

講師 内富 恭則(中国電力)・早狩実記(光華AC)

- ①W-up jog 10分 ストレッチ体操
- ②ハードルを使用してドリル 股関節がしっかり広げられるように
- ③障害物の越え方
障害物の上に腰をのせるイメージで跳ぶ
着地はブレーキをかけないで踏み込むようにする
出来る限り無駄な体力を使わない
- ④水濠の越え方
着地地点は、傾斜があるため重心が後ろへ下がらないよう注意する
着地した次の足を無理に前へ出さず、体重を前にかけブレーキをかけない様にする
水濠前でスピードをあげると着地に失敗をしやすいので、少しスピードを落とすぐらいでよい
- ⑤70%くらいの力で1周ランニング
- ⑥記録会后、クールダウン jog・体操
講師の二人が実際に見本を見せたり、参加者と一緒に走って障害・水濠を越えたりしていました。特に水濠の練習は着地について詳しく指導されていました。参加者からは、「この種目のある大会は少ないので、参加できてとてもうれしい。ポイントをしっかり教えてもらったので、障害や水濠をうまく越えられるようになった」との感想があった。

<競歩>

参加者 クリニック・記録会1名

講師 齋藤 義夫(NICO)

- ①ルール説明 ②ドリルの紹介と実践
- ③1000mWのタイムトライアル ④ビデオにて分析
参加者からは、「よくわからなかった基本的なことや自分の歩きの癖などを教えてもらって勉強になった。楽しかった」との感想があった。

<棒高跳>

参加者 クリニック23名 記録会20名

講師 谷口 直土(中京スピリッツ)

前田 朋子(中京大クラブ)

- ①W-up jog・体操 ②ドリル ③流し 100m×2本

④ポールを使用したストレッチ ⑤踏み切り練習

⑥ポール走 ⑦ポールワーク ⑧足合わせ

「シーズンの最後に、このような機会があり、来シーズンにつながるポイントを見つけることができた。ベスト記録を更新できた」との感想があった。

<ハンマー投>

参加者 クリニック15名 記録会12名

講師 室伏重信(中京大) 室伏由佳(ミズノ)

①W-up ②練習トライアル2本 ③記録会3本

④基本(二人組で動き作り)スイングを長く、スタートの位置を忘れない

⑤質疑応答

参加者からは、「年齢に関係なく丁寧に教えてもらった。少人数で、個々に教えてもらえて良かった。年に何度かクリニックを開催してもらいたい」との感想があった。

このように今回のクリニックは、どの種目も参加者の今後の練習につながる良いクリニックとなりました。参加者の皆さんには、少人数で個々に細かく指導していただいたことや学校ではできない練習ができたこと等、このクリニックを大変喜んでもらえました。どの種目の参加者からもこのようなクリニックをもっと実施してもらいたいという声が多く聞かれました。クリニックに参加していただいた皆さん、本当にありがとうございました。このクリニックで学んだことを冬季練習に生かし、来シーズンも頑張ってください。女性委員一同皆さんの応援をしています。

最後になりましたが、講師の先生方にはお忙しい中、クリニックでのご指導本当にありがとうございました。日本陸連女性委員会の皆様、愛知県でこのようなクリニックを開催していただき感謝いたします。そして、このようなクリニックが今後たくさん開催されることを願っています。

(谷崎 好美)

2008年 名古屋ハーフマラソン

平成20年11月24日(祝・月)

瑞穂公園陸上競技場内周ハーフマラソンコース

成績(4位以下は本県分で順位・氏名のみ 26位以下省略)
男子の部

1	ガトゥニゲディオン	日清食品グループ	1.00.11	大会新
2	サムエルデュング	愛知製鋼	1.01.17	
3	糟谷 悟	トヨタ紡織	1.03.35	
4	上條 記男	5 鈴木 伸司	6 浅羽 慶彦	
8	阿部 哲史	9 小澤 信	10 山内 貴司	
11	藤井 輝	13 中山慎二郎	16 風見 尚	
18	岩月 崇	20 角田 達彦	22 土田 豊和	
23	澤原 雄一	24 福井 雅也	25 原口 雄二	

女子の部

1	大南 博美	トヨタ車体	1.09.31
2	大南 敬美	トヨタ車体	1.12.13
3	杉原 加代	デンソー	1.12.55
5	林 有希子	6 国居 舞	7 青戸 敦子
9	林 麻美	11 吉田 文子	13 難波あゆみ
15	大宮貴恵子	16 鈴木あすか	17 加古 光江
18	加藤 育子	19 岸上 香織	20 中條 恵
21	初山 雅恵	22 河村 真紀	23 徳永 絢子

第3回愛知県市町村対抗駅伝競走大会
2008年12月6日(土) 愛・地球博記念公園

順位	市の部		町村の部	
1	岡 崎	1.34.40	三 好	1.42.28
2	豊 橋	1.35.59	武 豊	1.42.29
3	豊 田	1.36.17	吉 良	1.42.58
4	田 原	1.37.26	阿 久 比	1.43.38
5	名 古 屋	1.38.22	小 坂 井	1.43.57
6	豊 川	1.39.08	東 浦	1.45.41
7	豊 明	1.39.31	大 治	1.45.50
8	西 尾	1.39.57	設 楽	1.46.04



岡崎市チーム



三好町チーム

区間賞

市の部

- ①清田 真央 (田原) ②田中 秀幸 (豊橋) ③夏目 勝也 (田原) ④鷺見 梓沙 (豊明) ⑤松井 将器 (豊田) ⑥野津 亮祐 (豊橋) ⑦西川 生夏 (名古屋) ⑧花岡 紗那 (岡崎) ⑨鷺見 知彦 (岡崎)

町村の部

- ①西川かりん (武豊) ②福井 雅也 (三好) ③渡辺 幸司 (三好) ④山田日菜野 (三好) ⑤中村 駿介 (吉良) ⑥高尾 瑠 (阿久比) ⑦加藤 舞 (小坂井) ⑧奥田和佳奈 (武豊) ⑨藤井 輝 (東浦)

理事会等会議報告

○常務理事会 平成20年9月16日(火) 愛知県教育会館

1 協議事項

- ①第26回レディース陸上競技大会について
②西田・高橋記念国際棒高跳大会の中日新聞社開催分担金削除の申し出について
③東海選手権大会の要項の検討について
④審判調査ハガキに対する対策について
⑤その他

2 報告事項

- ①大分国体・愛知陸上競技選手団監督の変更と選手の削減
②全国情報処理研究会へ東海地域からの派遣者
③秩父宮章の東海5県への配分
④中日豊橋マラソンに対する中日新聞社の考え
⑤メルボルンマラソンへの派遣者
⑥その他 (稲垣 裕)

栄 章

おめでとうございます

日本陸上競技連盟より、第63回国民体育大会大分国体(10月3日～7日大分)と第24回日本ジュニア・第2回日本ユース選手権大会(10月17日～19日鳥取)の会場において、下記の皆さんの授与式が行なわれました。(敬称略)

- 特別賞 室伏 広治 室伏 重信
(北京オリンピック入賞選手及び指導者)
秩父宮章 村瀬雄一郎 柴田 和秀
平沼亮三章 北村 肇
河野謙三章 伊藤 勝男
河野一郎章 船坂 実来



室伏 広治 室伏 重信



村瀬雄一郎
柴田 和秀



北村 肇



船坂 実来

以上 大分スポーツ公園
九州石油ドームにて
春日弘章 粟津 良介
鳥取コココーラ
ウエストパークにて

感謝状をいただきました

去る秩父宮杯第40回全日本大学駅伝対抗選手権大会(11/2)前日、伊勢神宮会館にて、40年間にわたる運営協力にあたった愛知陸上競技協会の功績に対して、朝日新聞社から楯(右上写真)が、森下伊勢市長より感謝状(右下写真)が贈呈された。



朝日新聞社から楯をいただく國分副会長兼理事長



(稲垣 裕)

お く や み

長年本県の陸上競技発展のため多大なるご尽力をいただきまして、ありがとうございました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

逝去者氏名	逝去年月	支部名
河野 正晴	20・9	東三河
宮田 元昶	20・12	尾 張

編 集 後 記

◆第26回レディース大会が多くの皆様のご協力とご支援で無事に終了。「女性パワーここにあり」を全国に発信。
◆大分国体選手及びスタッフのがんばりに大きな拍手。お疲れさま! ◆「学校紹介」は、岡崎城西高校を取材。部員の前向きな活動と礼儀正しさに感動。宇野・夏目両先生、部員の皆さんに多謝。◆朗報! 宮本智秘書が昨年12月に結婚。末永くお幸せに!

編 集 委 員

- 占部 輝之 大久保真理子 大西 敏功 外山 修
中尾 洋一 新美 準人 西垣 完彦 野口 一昭
山本 三郎